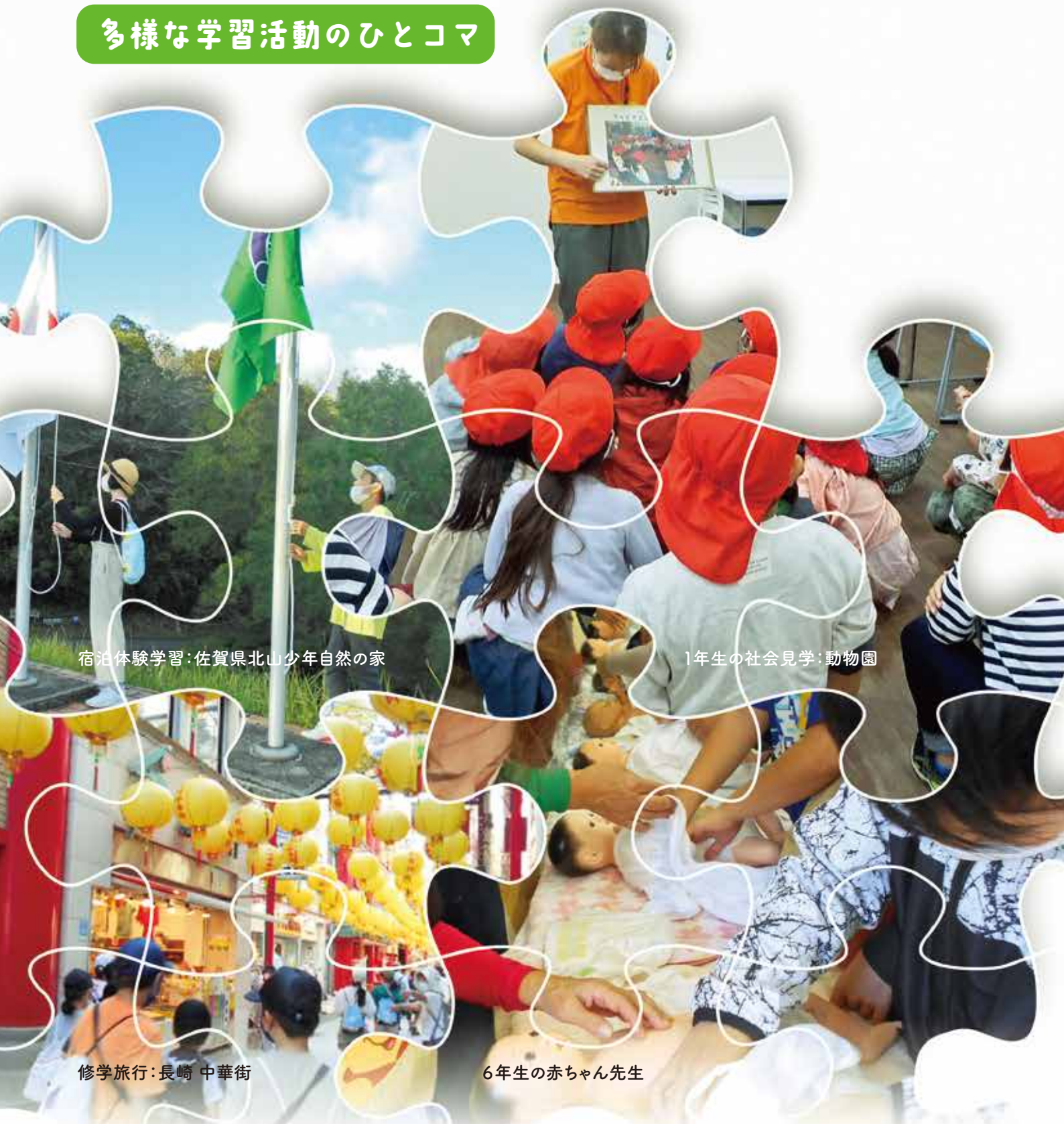


げんきに学んで正しくすすむ。

多様な学習活動のひとつコマ



宿泊体験学習：佐賀県北山少年自然の家

1年生の社会見学：動物園

修学旅行：長崎 中華街

6年生の赤ちゃん先生

学校が位置している地理では得られない経験ができることが修学旅行や社会見学等の醍醐味です。長崎での平和学習や日常とは違う場面での集団生活で社会に生きる一人としての知識を身に付けます。また乳幼児づれの保護者から育児体験談等を聞くを通して、家族や周りの人々の思いに気づき、自他を尊重する心を培う等、命の大切さを実感させる学習なども行っています。

ぶらぶら歩いて、さがそう

「荘島」～江戸や明治の名残り～

荘島校区は、江戸時代に久留米が城下町として整備された当時から「町」として発展してきた場所で、今でも町のあちこちに江戸時代から明治、昭和など昔の名残を発見することができます。ここでは、その場所を荘島町、中央町、白山町、本町、松ヶ枝町の順にたどってみることにしましょう。



しょうじまタブレット博士

荘島には武士が住んでいた城下町全体を見渡そう

久留米の城下町の中心は、石垣の上に篠山神社がある「本丸」です。そこから有馬の殿様が住んでいた「二の丸」、家老が住んでいた「三の丸」、そして家臣団が住んでいた「外廓(そとぐるわ、篠山小学校や裁判所などがあります)」が南に続きます。ここまでがお堀に囲まれた「城内」です。

武士はこのほか、JR久留米駅の周りの「京隈小路(きょうのくまこうじ)」、櫛原町のあたりの「櫛原小路」、日吉町にあった「十間屋敷」、そして荘島町を中心とした「庄島小路」などに住んでいました。通町や南薫町などには町人が住んでいました。これらが、のちの明治22年、久留米市としてスタートした地域です。



久留米は、ほかの30カ所と一っしょに全国で最初に「市」になったまちの一つなんじゃ。時代の最先端を走っていたんじゃない。

周りより高く、昔から人が住んでいた場所

荘島という地名は「人が住んでいる(=荘)、周りより高い場所(=島)」という意味だそうです。残念ながら江戸時代より前の様子は、はっきりと分かりませんが、発見されていることなどから、ずいぶん昔から人が住み着いていた可能性があります。洪水の被害に遭いにくく、住みやすい場所—ずっと以前から、そんなふうに考えられていたかもしれません。



春の久留米城跡
明治初期に城は撤去され、今は石垣と神社だけが残っています。

荘島町

江戸の街並みを探すなら荘島町の南側を歩こう

小学校を境に南と北で違う町並み

さあ、荘島町の現在の姿を見てみましょう。荘島小学校ををささんで、北側(明治通り側)とその反対側の南側では、街の様子が全然違います。

北側は太平洋戦争の終戦直前にあった久留米空襲でほぼ全ての建物が燃えてしまい、その後、区画整理(道路を広げたり直線にするなどして町並みをきれいにすること)が行われたためです。それとは対照的に南側は空襲で建物が焼けなかったため、道路などもそのまま残ることになりました。

江戸時代の町割 そのままの南側

小学校の昇降口の前の通り(諏訪神社との間の道)は江戸時代の地図にも描かれている道路で、南に進むと突き当たりになっています。「十字路」ではなく漢字の「丁」の字に似ているので「丁字

路」といいます。さらに南側はカクカクとかぎ型に折れ曲がった道になっていて、江戸時代に足軽(あしがる)という身分の武士が住んでいた一角に向かいます。このように変わった形の道は、城下町の特徴の一つです。外から敵が攻め込んできた時に、スピードを遅くさせて攻撃をしやすくするための工夫なのです。

青木繁旧居の周りの道路が、地図で見ると「目」の字のようになっていたり、道が狭いのも、こうした工夫の現れです。今では車が通れるように道幅が広げられるなど変わった部分もありますが、基本的には江戸時代の町の様子(町割といいますが)がそのまま残っているエリアです。



小学校の南側
昇降口の前の通りを南に進むとかぎ型に折れ曲がった道につながります。小学校の南側は戦災を逃れたので、こんな昔の道も残っています。



小学校の北側
北門から明治通りに向かってのびる道。小学校の北側は戦争で焼け野原になったあと区画整理され、直線的な街並みになりました。

終戦直後にぎざぎざ「明治商店街」

本町交差点の南西に、昔の建物が残る一角があります。「明治商店街」です。タイルなどおしゃれに飾った建物の1階で営業していたのは八百屋や肉屋、魚屋のほか薬局や金物屋、電化製品店、理髪店、写真館など。あらゆるお店がそろい「ここだけで生活できる」と言われたほどでした。

今でいえばゆめタウンのような場所でしょうか。その中にたくさんの方が住んでいました。戦後の久留米の復興に大きな役割を果たした場所です。

新しい道路と昔からの道路

その前を通る「明治通り」や西側の「月星通り」は、江戸時代の地図には描かれていません。明治通りはその名の通り明治時代になって建設されました。またお年寄りに話をうかがうと、月星通りは、戦争中は「疎開道路」と言っていたそう

です。火事が広がるのを防いだり、空襲の時に南側(梅満町から津福方面)へ避難するために建物を取り壊して新しく道路を作ったのだそうです。

江戸時代からある道路は、ムーンスターの正門あたりから荘島体育館の下を通過して荘島郵便局の角を経て北側へ向かう「西堅町」の通りです。この道路



明治商店街
昭和の時代までは細い路地の両側にたくさんの商店が立ち並び、買い物客でにぎわっていました。

は、荘島小路の武士が城内に向かう最短ルートでした。ここも武士が行き交っていたことを想像するには、ちょっと狭い道路ですよ。

ネアシティまでが「荘島町」

さらに西側、荘島体育館からエバーライフネアシティまでが荘島町です。間にJRの線路があるために違う町のような錯覚をさせていただきます。江戸時代の地図を見ると、白角折(しらとり)神社のすぐそばまで、有馬家に仕えた家老の大きな屋敷が広がっていて、だいたいここまでが現在の荘島町になっていたことがわかります。

ネアシティの場所には、大正3年に久留米で一番古い鉄筋コンクリートの高層建築物として建てられた「日本製粉久留米工場」(6階建て)がありました。(P8参照)



天保年間(江戸時代)の荘島



この地図を見ると、荘島の周りをぐるっと川や田んぼが囲んでいたのが分かる。白角折神社や諏訪神社も見えるのう。

久留米城下町図(天保図)〈部分〉
久留米市教育委員会蔵



いまの荘島



荘島は、古いものと新しいものが同居した、バランスの良いまちなんじゃ。便利じゃが静か。とっても暮らしやすいのう。



青木繁旧居
江戸の街並みが残る路地に建っています。

中央町 江戸時代は、お寺と小さな武家屋敷が混在する地域だった。

南北は明治通りと昭和通り、東西は三本松通りとJRの線路に囲まれたエリアが中央町。このうち池町川より南側が荘島校区です。ちょうど校区の北の端、つまり池町川のそばには高さ3メートルほどの段差があります。本正寺横の医大通りや、聖使幼稚園と妙泉寺の間の道路が坂になっています。これから南側が、荘島が「島」である様子が分かる場所です。

江戸時代は、お寺と小さな武家屋敷が混在する地域でした。昭和7年に「今町」「田町」「魚屋町」「細工町」「米屋町」などの小さい町名をまとめて新しい

町名を決める際、荘島校区の住民は「明治町」を推し、篠山校区は「中央町」を希望したため投票をしたところ「中央町」に決まったそうです。

校区外になりますが、現在は「あきない通り」と名付けられている通りは、昔は

「問屋街」や「中央通り」と呼ばれていて「中央」の名前になじみがあったのかもしれない。この通りには「つちやたび」本店（現在のムーンスター）や、昔の大きな書店「金文堂」本店の建物などがあり、たいへんにぎわっていました。



中央町交差点
JR久留米駅前を伸びる道は現在水害対策のため地下に貯水槽が建設されています。



荘島が「島」である様子が分かる場所
聖使幼稚園と妙泉寺の間の道路から小学校を見るとこんな坂道になっています。



中央町には、ほかに「片原町」「鍛冶屋町」「呉服町」「魚屋町」などの町名があったんじゃ。昔の久留米の中心じゃ。

白山町 むかしは、ここに蒸気機関車が走っていたって知ってた？

白山町の荘島校区の範囲は月星通りのムーンスターから、西は池町川に突き当たるまで。江戸時代には池町川沿いに田んぼが広がる地域でした。明治時代になって、「白角折（しらとり）神社」と京隈村の梅林寺そばにあった「山王宮」（現在はJR久留米駅前の「日吉神社」と

して引越しています）から1文字ずつを取って「白山村」と名付けられました。その後、鳥飼村の一部を経て大正6年に久留米市に編入されています。

ところで、みなさんは白山町に鉄道が走っていたことをご存じですか？白角折神社から丸山クリニックに向かう、ゆる

やかなカーブの道。大正元年から昭和23年までの40年足らずの間、ちょうど縄手ガードのそばのジョイフルあたりにあった「上久留米駅」から、現在の津福駅に向けて蒸気機関車が走っていたのです。名前は「大川鉄道」。丸山クリニックから先は、現在の江南中学校の敷地を通り、中学校の正門に向かう道に線路がありました。当時は大川の木工製品や城島の日本酒、それに日華ゴム（今のムーンスター）の従業員などを運んだといひます。今でも江南中学校の下を流れる川には、当時の鉄道橋を支えたレンガ組みが残っています。



西鉄天神大牟田線の津福駅から大善寺駅の先までは、昔の大川鉄道の線路じゃ。昔は蒸気機関車がのんびり走ってたんじゃ。



白山町のシンボル、白角折神社
大木が映る鎮守の森は、久留米市の「市民の森」指定第1号です。



むかし蒸気機関車が走っていた場所
白角折神社から丸山クリニックに向かう道。今は閑静な住宅街になっています。



本町 戦争で焼ける前までは久留米で一番にぎやかな通りだった！

現在の「本町通り」は江戸時代、大きな城下町だった柳川との間を結ぶ「柳川街道」でした。ただし、起点は現在の本町交差点ではなく昭和通りのスローの前にある「札の辻」という石碑の場所です。ここからフタタの敷地を通り、現在は居酒屋「惣吉」となった昔の図書館西分館（その前は十七銀行久留米支店）の前、さらに旧みずほ銀行久留米支店の東側に面した場所に抜けていました。

この通りは江戸時代、三本松公園付近までが「三本松町」、それより南は「原古賀町」や「苧扱川（おこんがわ）町」と呼ばれていたそうです。ところが苧扱川という字は読みづらいため、昭和7年に「本町」に変わりました。この一帯は戦災で焼失するまでは、久留米で一番にぎやかな通りでした。ブリヂストンやアサヒシューズの前身である仕立物屋「しまや」（石橋正二郎氏生誕の地の碑が建って

います）をはじめたくさんの商店や飲食店が立ち並び、夜まで人通りが絶えませんでした。

本町通りは、今の西福寺の前あたりから無量寺の前を通っていたようです。やはり戦後の区画整理で本町通りは西に移動し、昔の道路や町並みは失われています。江戸時代、ここから南に向かって4丁目～6丁目と続いた通りは、7丁目の交差点から右（西）に曲がり、鳥飼小学校の横を通る道へと続きました。今の平島交差点からJRのアンダーパス（平島のガード）を通る道路（柳川県道）は、昭和に入ってから建設されました。江戸時代、7丁目付近には城下町と鳥飼村との境界である「原古賀番屋」がありました。



小学校東側の諏訪神社は本町通りから見ると斜めに建っています。昔の通りが今は通っていないことを示しています。



本町交差点
右側の建物は旧みずほ銀行久留米支店。この近くに石橋正二郎氏生誕の碑があります。

いまの本町交差点付近に、ブリヂストンにつながる仕立物屋「しまや」があったんじゃ。(P22参照)



松ヶ枝町 えびす様に続く不思議な「七曲」の細い路地

松ヶ枝町は、北は荘島、南はおこん川公園に挟まれたエリアで、令和2年度の「久留米市統計書」を見ると、市内で4番目に狭い町（面積0.026平方キロ）ということが分かります。現在のおこん川公園は、昭和のはじめまで「カンチンタン」という蓮田でした。「裏町」という地名だった江戸時代には、田や畑が広がっていた様子が見ええます。この特徴は、何と言っても「七曲」と呼ばれる細い路地でしょう。

昔は両側に畑があり農家の母屋が建っていたようですが、北側から入っていくと江戸時代は7つの角を曲がった先は行き止まりでした（現在は本町通りへ抜けることができます）。その最後の角に

は、今でも小さく変わった形の「えびす様」が鎮座しています。詳しい由来はわかりませんが、地域のお年寄りの話では、昔はここを中心にお祭りも開かれていたそうです。



松ヶ枝町のえびす様
「七曲」と呼ばれる細い路地の最後の角にまつらるやさしい笑顔のえびす様。



おこん川公園
昔は蓮田だった場所で、今も周囲から一段低くなっていることが分かります。



「松ヶ枝」という地名は明治時代になって付けられたものじゃ。縁起の良い、めでたい地名じゃのう。

しょうじまびと

荘島人

荘島の気風が育てた傑人

荘島に生まれ、荘島小学校に学び歴史にその名を刻んだ逸材。
その功績は、荘島の風土から生まれ、積み重ねた努力によって結実しました。

久留米市は、筑後川が平野を潤し、その南に耳納山地がそびえています。春の久留米つつじ、秋の櫨並木、あふれる自然は人の心を豊かに育むことでしょう。そしてここ久留米市は北に商都博多、東に天領日田、西に古くから海外貿易で栄えた長崎、そして南は肥後・熊本と交通の要衝にあり、久留米絣や藍胎漆器など特産品も豊富だったことから、商業が発達しました。

明治時代の久留米・荘島は維新後の士族が新しい活躍の場を求めて人心がふつうしていた時代でした。そういう時代に生き、荘島小学校に学んだ人々の中から歴史に名前を刻む、傑出した人物があらわれました。そんな逸材の登場は、偶然ではなく久留米市のあふれる自然や風土、そして荘島の気風が影響しているとも言ってもよいのではないのでしょうか。

久留米森林つつじ公園より久留米市街を望む

心を揺さぶる希代の芸術家

青木 繁

日本に西洋画が入ってきた時代に、誰よりも自由な発想と生き生きとした筆致でアートを描き、日本近代美術史にさん然と輝く足跡を残す。



青木 繁

久留米の自然を愛した青木

青木繁は、明治15(1882)年に荘島町、久留米藩士族の屋敷町に生まれました。明治20(1887)年に荘島尋常小学校に入学。その後久留米高等小学校を経て久留米中学明善校に進学しますが、途中で画家を志し、明治33(1900)年、18歳で東京美術学校西洋画科に進み、次々に日本近代美術史に名を残す作品を描きます。

わが国は筑紫の国や白日別、
母います国櫨多き国

青木は多くの詩歌も残しました。高良山の東、兜山(通称けしけし山)の筑後平野を見渡すところに石碑があり、この歌が刻まれています。明善校で絵に目覚めた頃、青木は兜山や高良山南麓の温石湯などに足しげく出かけ、写生を繰り返しました。車のない時代、青木は絵具と絵筆を携えてはやる気持ちを抑え、駆け足で山を登ったのでしょうか。毎年3月けしけし山の山頂で、青木繁をしのぶ祭りが開かれています。



坂本繁二郎生家に残るふすま絵(レプリカ)。青木が坂本家に居候していた時に落書きしたという。

坂本繁二郎と青木繁

青木と同じ年に久留米市京町に生まれ、久留米高等小学校で同級だった坂本繁二郎も青木と並ぶ洋画界の巨匠です。2人は良き親友であり、ライバルでもありました。坂本の生家が京町に保存され一般公開されていますが、ふすま絵の落書きに青木と坂本の逸話が残っています。坂本の父が描いた絵の上に青木が上書きしたというのです。よく坂本は実直で大器晩成、青木は早熟で放逸と評されます。ふすま絵の逸話が真実ならば、その論評を証明するように青木の性格をよく表しています。

色あせない青木の魅力

青木は明治36(1903)年、白馬会展に『黄泉比良坂』など神話をモチーフにした絵画を出品し、第一回白馬賞を受賞。明治37(1904)年に同展に出品した『海の幸』は、さらに青木の名声を高めました。ただ、その後の青木は生活苦などの不遇から、九州各地を放浪、肺病を患い28歳の若さで福岡市の病院で一生を終えます。

『海の幸』に代表される青木作品の特長は、ダイナミックな構図の中に、一見書き残しや未完成とも取れる自由奔放な線にあります。昭和42年に『海の幸』は油彩画として初めて重要文化財に指定されました(昭和44年『わだつみのいるこの宮』も重要文化財に指定)。青木が亡くなってから50年以上後のことです。早熟な彼の才能に世間が追いついたのは、昭和後半に入ってからのことでした。平成や令和になっても青木の展覧会は開催され、再評価を更新しています。現代においても、その感受性豊かな線は色あせることがありません。



青木繁《海の幸》1904年 油彩・カンヴァス 70.2×182.0cm 重要文化財 石橋財団アーティゾン美術館蔵

用の美を体現した先駆の工芸家

豊田勝秋

工芸家にして、教師・文化人。日本の近代工芸にさん然と輝く足跡を残し、九州の文化・工芸界のリーダーとして子弟の育成にあたる。



豊田勝秋

生活を豊かに。生涯貫いた理念

豊田勝秋は青木繁に遅れること15年、明治30(1897)年、荘島町の久留米藩士族の家に生まれました。豊田家と青木家は目と鼻の先にあり、豊田は後に雑誌で「青木繁にはずいぶん可愛がられて育った」と語っています。青木によって芸術への目覚めが起こったのかもしれない。何かを成し遂げたいという「荘島」の気概は両者に共通するものがありました。

明治36年荘島尋常小学校入学。成績が良くずっと級長を務めました。中学明善校から大正4(1915)年東京美術学校鑄造科に入学。憑かれたように工芸の世界に飛び込んでいきます。

仕事では、東京高等工芸学校助教授(後に教授)で学生に教えるとともに、既成概念にとらわれない独自の工芸スタイルを目指す「無型(無形)」という創作集団の中心人物として活躍します。この時代の彼は日本最大の総合美術展覧会「帝展」に出品し、特選を2度受賞するなど最先端の作品を生み出しました。またプライベートでは青木繁の長男・福田蘭童や久留米藩有馬家16代当主で後に直木賞作家となる有馬頼義などと親交を持ちました。

豊田の作品は工芸の近代性をどのように現実の生活に活かすかという「生活を豊かに」という理念が貫いており、彼が教えた学生にも色濃くその影響を与えました。彼の作品は現代で言えば「無印良品」などシンプルで暮らしに使い勝手の良い製品に通じるところがあります。彼の思い描いた思想は、脈々と日本に受け継がれていると言っても過言ではありません。



豊田勝秋《春日》1930年 鑄造・銅 高さ 27.0cm 最大幅 19.2cm 石橋財団アーティゾン美術館蔵

九州・久留米に尽くした後半生

戦後郷里久留米に戻った豊田は、久留米に工芸指導所を開設することに尽力します。昭和3(1928)年、当時の商工省(現在の経済産業省)によって設置された工芸指導所九州支所は全国で3番目でした。豊田は初代支社長として久留米耕などの染織や窯業といった地場産業の育成に力を入れました。

昭和29年頃から、佐賀大学教育学部の教授(後に名誉教授)に就任するとともに、鑄造作品の制作を再開。工芸の教員生活を送りながら、毎年のように帝展から名称を変えた日展に出品を続け

ています。教え子だけでなく、九州の工芸家たちの多くが彼の後ろ姿に鼓舞されたといえます。

豊田の晩年は、久留米を文化都市にと志を抱き、その礎を築きました。荒れ果てた久留米城復興運動を起こし、当時の久留米市長近見敏之氏のもと「水と緑の人間都市久留米」の企画面での指南役として活躍しました。享年74の昭和47(1972)年は久留米まつり水の祭典の第1回が行われた年にあたります。荘島校創立150周年の令和4(2022)年にこの祭典は第51回を数えました。

世界を極めた革新の実業家

石橋正二郎

「世の人々の楽しみと幸福のために」石橋正二郎は生涯、この理念を貫いた。それは世界にも、そして創業の地久留米にも注がれた。



石橋正二郎

仕立物屋「しまや」が原点

ブリヂストンは世界23の国・地域に114の工場を持ち、タイヤの売り上げで、ミシュランと世界の1、2位を競うグローバル企業です。ブリヂストンの久留米工場は、世界のマザー工場として、乗用車用をはじめ、航空機用、レーシング用等の各種タイヤを生産しています。



JR久留米駅前に設置された世界一の巨大タイヤ

その創業者が石橋正二郎です。正二郎は明治22(1889)年に仕立て物屋「しまや」の次男として、久留米市芋扱川(現本町)に生まれました。しまやは正二郎の父・徳二郎の叔父で豪商の緒方安平が起こした「嶋屋」をのれん分けして開業した着物などを縫う小さな商店でした。

正二郎は6歳で荘島尋常小学校に入学し首席で卒業。明治35(1902)年久留米商業学校(現久留米商業高校)に入学。当時全国的に評価されるほど幅広い知識と人格形成を目指した先進的な学校でした。正二郎はしまやを継ぐことを決心しますが、学校で最先端のビジネスの知識を学んだものの、家に帰ると旧態依然とした徒弟制度の経営を見たとき、「一生をかけて実業をやる決心をした以上は、全国的に発展するような事業で、世のためになることをしたい」という強い思いを持ちます。

旺盛なチャレンジ精神の経営

明治から大正にかけて正二郎は次々に事業に改革を起こします。従業員のやる気を起こすため徒弟制から給料制に切り替え、売り上げを伸ばすため商品は足袋に絞ります。次に断行したのは足袋の均一価格売り、そしてヒット商品「アサヒ地下足袋」の発明です。これは大正から昭和にかけて売れに売れ、商品名の地下足袋は一般名詞になりました。



ヒット商品「アサヒ地下足袋」

昭和に入り、正二郎はタイヤ製造を開始します。自動車の未来を見越してのことです。このように正二郎の経営はチャレンジに満ちたものでした。失敗や困難も多かったのですが、研究開発と人望、そして優れた人材との出会いでピンチをチャンスに変え、業績を伸ばし続けます。そして昭和51(1976)年に87歳で亡くなるまで、生涯実業の現役を貫きました。



石橋文化センターで初夏に開催されるバラフェア

久留米市への恩返し

正二郎は、並木が美しいブリヂストン通りや小中学校のプールなど数多くの施設を久留米市に寄贈しています。その代表となるのが、石橋文化センターです。石橋文化センターを入ると、すぐ右に石橋正二郎記念館があり、正二郎の歩みや人となり伝える資料を展示しています。

正二郎は美術品の蒐集家としても知られ、同じ荘島小学校出身の青木繁の洋画や豊田勝秋の美術品をはじめ、多くの美術品を収集しており、現在は公益財団法人石橋財団が管理しています。文化センター内にある久留米市美術館にはその一部が委託されています。

文化センターの入り口には、「世の人々の楽しみと幸福のために」という正二郎の言葉が刻まれています。正二郎は文化センターに、美術、音楽、スポーツ、園芸等の施設で市民の豊かな生活と明るい社会をつくりたいという思いを込めました。今は久留米市がその思いを引き継ぎ、季節ごとに花や音楽のイベントを開催しています。

荘島小学校創立150周年記念事業

創立150周年を機に、 次の50年、100年に踏み出すために



▲荘島小学校校庭で児童や保護者、教職員、地域の協力者がつくった「祝150周年 荘島小」の人文字
◀荘島小学校創立150周年横断幕を披露した水の祭典久留米まつりのマーチングパレード

つないでいきたい荘島の歴史

令和4(2022)年11月28日(月)に荘島小学校は150周年を迎えました。全国でも150年を数える小学校は、そんなにたくさんはありません。この年150周年を記念して、さまざまな行事が行われました。この行事には荘島小学校の先生や児童、PTA、荘島校区コミュニティセンターなどのたくさんの方々に参加しました。コミュニティセンター館長の寺崎雅生さんはこう話します。「荘島小学校は有名な人々をたくさん生み出してきました。受賞こそ逃しましたが、今年、令和4年のノーベル化学賞の候補に挙がった國武豊喜さんも荘島小学校出身です。小学校周辺には、石橋正二郎生家跡、青木繁旧居など歴史に残る人の史跡が残っています。この歴史を次の人たちに残していかなければなりません」

令和4(2022)年5月28日(土)に行われた荘島小学校の運動会で寺崎さん



石橋正二郎生誕の地の石碑

は、児童たちが口々にこんなことを話していたのを聞きました。「今年は荘島小学校150周年だね」校長先生を始め、各学級の先生たちが、児童たちに150周年のことを伝えていらっしゃいます。さまざまな記念行事は児童たちの胸に刻まれていくことでしょう。

工夫してすすめられた記念行事

本当であれば記念式典や記念講演会などの行事を行う予定でしたが、2020年から続く新型コロナウイルス感染症の影響で、大規模な集会ができなため、最小限度のものになりました。

150周年記念横断幕は北門横と、南門に掲げられました。令和4(2022)年8



荘島校区コミュニティセンター館長 寺崎雅生さん

月4日(木)に行われた水の祭典久留米まつりでは、児童たちがこの横断幕を持ってマーチングパレードに参加し、市民にアピールしました。

木片を使ったフォトフレームについて、少し説明しましょう。校庭の南側に古い桜の木があって、倒れる危険があ

荘島小学校創立150周年記念事業

- 1.150周年記念横断幕の作製
- 2.水の祭典久留米まつりのマーチングパレード出演
- 3.桜の木片でフォトスタンド作製
- 4.“150周年”を描く人文字の記念写真
- 5.記念写真を使ったクリアファイルの作製
- 6.荘島小学校創立150周年記念文庫の設置
- 7.150周年記念誌の発行

りました。2022年に安全のために切られましたが、この木片を利用してフォトスタンドを作り、児童に配布したのです。

毎年秋に、児童たちの学びの発表の場として「荘島小フェスタ」が行われます。令和4(2022)年11月22日の荘島小フェスタでは、児童や学校の関係者たちが校庭に集まって150周年を描いた人文字をつくり、小型飛行機から記念写真を撮りました。これは西日本新聞やNHKで取り上げられ、広域に発信されました。



桜の木片で作られたフォトスタンド

150周年をきっかけに考えたいこと

荘島小学校には課題もあります。校舎が古くなったこともそのひとつです。教室のある本館は昭和20~30年代に造られ60年以上もたちました。そろそろ建て替えを考える時期が来ていますが、なかなか実現していません。少子化の影響で近年荘島小学校の児童数は減っており、校舎建て替えの話題が広がらないのは事実です。だからといって、伝統ある荘島小学校の歴史を絶やすこと

はできません。

気候の温暖化でエアコンのある教室が当たり前になり、パソコンを使った学習など学ぶ方法も変化しました。「げんきに学んで正しくすすむ」という考え方に沿って今の時代に合ったやり方で、児童たちを育てていくために、“新しい時代の学び舎”をつくる機運を高めていきたいものです。



■荘島小学校創立150周年記念事業実行委員会

委員長 徳永未希
委員(50音順) 案納 直和、井上亜矢美、篠原靖典、澁田 聡、高田良枝、竹井政成、津留崎かおり、西見遥渚、播広屋 茂、森 久、良永尚史

荘島小学校創立150周年記念誌「大いちょう」



■記念誌にご協力頂いた方々(順不同敬称略)

荘島校区まちづくり委員会
公益財団法人石橋財団 アーティゾン美術館
久留米市教育委員会
久留米市市民文化部文化財保護課
株式会社ブリヂストン
株式会社ムーンスター
株式会社ニッポン
ナスカアート株式会社
公益財団法人久留米観光コンベンション国際交流協会

■参考文献

「久留米市史」第2~6巻 / 「歴史散歩 No.41 平和への願い・久留米の戦争遺跡(3) 一空襲遺跡編」(久留米市文化財保護課) / 「正二郎はね ブリヂストン創業者父子二代の魂の軌跡」(出窓社) / 「ブリヂストン石橋正二郎伝」(現代書館) / 「青木繁・坂本繁二郎」(西日本新聞社) / 「青木繁と坂本繁二郎 「能面」は語る」(丸善) / 「悲劇の洋画家青木繁伝」(小学館文庫) / 「生活の(かたち) 豊田勝秋のあゆみに見る昭和の工芸」(福岡県立美術館) / 「豊田勝秋 近代工芸先駆者の生涯」(西日本新聞社) / 「荘島小学校創立130周年記念誌」(荘島小学校)

◎本誌に掲載しているすべての写真、文、地図等を無断転用することを禁じます。

■発行

荘島小学校創立150周年記念事業
実行委員会(委員長 徳永未希)
記念誌編纂委員(50音順)
案納 直和、播広屋 茂、森 久

デザイン制作:PISCIS 森 豊(5.45年度卒業生)
印刷・製本:株式会社ネオプリンティング

発行日:2023年3月

荘島小学校のあゆみ

西暦	元号	本校の沿革
1868 1871	慶応4年 明治4	明治維新（明治元年） 7月 鹿藩置県で久留米県誕生、11月には筑後3県を統合して三潁県となる。この年、文明開化の風潮が起こる 1月 初めて全国の戸籍調査が行われる。全国の人口33,110,825人 8月 学制発布 11月28日 第二番荘島小学創設 初代校長大塚処平 在籍119人
1873	6	倉田雲平、米屋町につちやたび（現ムーンスター）を開業する
1874 1875 1876 1879 1881 1882 1884 1886 1887 1889	7 8 9 12 14 15 17 19 20 22	白山小学、小頭小学設立 芋扱川小学、原古小学、南荘島小学を設立 三潁県、小倉県福岡県が合併し、福岡県となる 2月 南荘島、白山両校と合併し三荘小学校となる 芋扱川小学、原古小学が合併し源泉小学となる 2月 荘島小学校と改称する。青木繁生まれる 源泉小学と小頭小学が合併し原古賀小学となる 4月 荘島尋常小学校と改称し、4年修業制となる 8月 久留米監獄支署が篠山町に移転 青木繁入学 2月1日 石橋正二郎生まれる 4月1日 久留米市の成立（市制施行） 12月11日 九州鉄道博多―久留米（千歳川仮停車場）間が開通
1892	25	石橋徳次郎、仕立物屋しまやを芋扱川町（現本町）に始める
1893 1894 1895 1896	26 27 28 29	荘島尋常小学校に夜学部を設ける。（明治30年に廃止） 6月 原古賀尋常小学校を荘島尋常小学校に合併。 3月 校舎新築落成。石橋正二郎入学 市立久留米簡易商業学校（現久留米商業高校） 荘島町集會堂で開校
1903 1904 1905	36 37 38	青木繁「黄泉比良坂」などで白馬会賞を受賞 青木繁「海の幸」を制作する。豊田勝秋が入学 筑後馬車鉄道（後の筑後軌道）が久留米市街地の営業を始め、石油発動機車が運転される。「馬鉄道り」「油鉄通り」の名称で呼ばれる
1906	39	石橋正二郎と兄の二代目徳次郎が、父から「しまや」の経営を譲り受ける
1907	40	4月 校舎狭隘につき東隣264.8坪拡張し仮校舎を設く 青木繁「わだつみのいるこの宮」制作する 久留米市内の電話が開通する。電灯が点る 義務教育年限、4年を6年に延長
1908 1909	41 42	義務教育延長により校舎が狭くなり、女子高等小学校内および元工業学校跡に分教場を設ける つちやたび店白山工場完成
1911 1912	44 45	3月25日 青木繁没 明治天皇崩御、大正と改元 久留米に自動車がお目見え。つちや、しまや両たび店が宣伝用に購入 市営ガス工場が荘島新町に開業
1914	大正3	久留米で初めて飛行機が飛ぶ（つちやたび主催）。久留米で最初の鉄筋コンクリート、日本製粉工場が完成 両替町の幼稚園（元両替小学校跡）に分教場を移す。 校舎増改築完成。全児童本校に収容 在籍数1,198人 増築2教室落成
1919 1922 1923	8 11 12	日本足袋（元しまや足袋）がアサヒ特許地下足袋を発売 つちやたびも「つちやゴム足袋」を発売する。久留米のゴム工業の始まり 福岡―久留米間に電車が開通（現・西鉄天神大牟田線） この年荘島小最大の在籍数に 在籍数1,493人 2月 金丸尋常小学校開校。荘島小の原古賀町と小頭町が学区分離し学年以下は金丸小学校へ、また白山町の一部が本校に合する 第一銀行（現・みずほ銀行旧久留米支店）が芋扱川町（現・本町）一丁目に新築移転

歴代校長

西暦	元号	代	校長名
1872	明治5	初代	大塚処平
1888	21	2	西村久蔵
1895	28	3	安永荒太
1899	32	4	高原法房
1900	33	5	杉本国太郎
1914	大正3	6	山川一行
1918	7	7	中富 豊
1920	9	8	河原直吉
1922	11	9	西田重四郎
1924	13	10	豊島林太郎
1929	昭和4	11	村田豊穂
1938	13	12	田口経次
1945	20	13	山下利夫

西暦	元号	代	校長名
1948	23	14	江上健吾
1956	31	15	酒井令蔵
1963	38	16	城島 貢
1966	41	17	花田良登
1971	46	18	中村勝磨
1974	49	19	香田隆之
1978	53	20	酒井亮祐
1980	55	21	真子俊明
1981	56	22	原 栄一
1983	55	23	時 政博
1984	59	24	吉武啓治
1988	63	25	角 胖
1991	平成3	26	中野成子

西暦	元号	代	校長名
1994	6	27	小島哲夫
1996	8	28	古賀則男
1999	11	29	萩尾耕一
2001	13	30	佐藤賢治
2004	16	31	木下啓作
2006	18	32	信國寿敏
2009	21	33	佐藤雄二
2012	24	34	佐々木祐子
2015	27	35	堀 民子
2017	29	36	大久保美加
2020	令和2	37	寺嶋 勲
2022	4	38	今津弘樹

西暦	元号	本校の沿革
1990	2	3月 屋内運動場（体育館）完成、講堂撤去 視聴覚ホール完成 6月 新プール竣工
1994	6	アジアカップバレーボール選手団来校
1996	8	インターネット設置、図書室カウンター新設、運動場砂場改修
1997	9	マケドニア国立舞踊団来校（国際タイム） 「本の読み聞かせ」が保護者により始められる 学習室だより「フレンズ」発刊
1998	10	8月 給食室ドライシステムに改築
1999	11	8月 学童保育所が校庭に開所
2000	12	2月 県道徳研究会発表会場校 更衣室・トイレ改築
2001	13	12月1日 第一回「大いちょうコンサート」を夕刻から開催 この年創立130周年を迎える 大いちょう餅がPTAにより発案され好評を得る 10月「自尊心を高め共に生きる子どもの育成」をテーマに研究発表会を開催 11月30日 創立130周年記念大いちょうコンサートが開催される
2002	14	1月10日 創立130周年記念大いちょう餅を全校児童に配布 2月 第40回筑後地区器楽祭で連続出場35回（通算39回）を表彰される 3月 学習室、なかよしルーム改築完成 3月 創立130周年記念誌を発行 4月 中長期的な教育課題に関する調査研究協力校に指定
2004	16	1月 福岡県学校図書館コンクール優秀賞受賞
2006	18	1月 図書室にエアコン設置
2007	19	2月 全九州学校図書館コンクール優秀賞受賞 2月 久留米市学校版ISO認定 4月 図書活動優秀実践校文部科学大臣賞受賞 ※情緒障害児学級廃止
2008	20	10月 江南中学校区事業授業報告会
2009	21	1月 筑後地区音楽祭（器楽）40回連続出場表彰 2月 筑後地区国際理解教育研究発表会
2010	22	1月 筑後地区音楽祭器楽の部出場 2月 ITC推進用PC、TV、EB等設置並びに配備 4月 給食業務を民間業者に委託 ※ ICT活用支援員モデル指定校 8月 校舎児童用トイレ洋式化並びにフローリング改修工事完了 9月 校舎耐震性改修工事完了 12月 筑後地区特別活動研究大会久留米大会発表会
2011	23	1月 第49回筑後地区音楽祭器楽の部出場 2月 福岡県人権・同和教育研究大会にて日本語指導のレポートを発表 3月 東日本大震災・大津波への義援金を児童会が募り寄付 4月 特別支援学級（ぎんなん学級）知的学級開設 ※久留米市人権・同和教育研究指定を受ける 9月 校舎外壁工事完了。体育館雨漏り改修工事完了 11月 全国人権・同和教育研究大会にて日本語指導のレポートを発表 11月 筑後地区音楽祭合唱の部出場 1月 筑後地区音楽祭器楽の部出場 10月 江南中学校区ブラン公開授業研実施 11 月 久留米市人権・同和教育実践研究指定中間報告会を実施 学校創立140周年を迎える。学校文集「いちょう」140周年記念号発刊。航空写真撮影 1月 筑後地区音楽祭（器楽）45回連続出場表彰を受ける
2012	24	7月 各学級へ扇風機設置。教育相談室へクーラー設置。（簡保にて）
2013	25	

歴代PTA会長

西暦	元号	代	PTA会長名
1946	昭和21	初代	田中国雄
1947	22	2	安田理雄
1949	24	3	国武保雄
1951	26	4	清水敏夫
1953	28	5	大坪徳太郎
1975	50	6	松尾 栄
1976	51	7	森山 慎
1978	53	8	森 益己
1985	60	9	花田禎介
1988	63	10	北村宗文
1990	平成2	11	田中 健
1991	3	12	内野 学
1995	7	13	泉 俊彦

西暦	元号	本校の沿革
2013	25	9月 2・3階廊下壁補修 11月 久留米市人権・同和教育実践研究指定研究発表会を実施
2014	26	1月 筑後地区音楽祭器楽の部出場 3月 西壁の補修工事。太陽光発電の設置 4月 特別支援学級（ぎんなん学級）自閉・情緒学級開設 ※久留米市教育研究指定を受ける 8月 江南中学校区ブラン夏の全員学習会を実施 4月～ 白山ガード工事。（通学路変更） 9月～ 空調工事
2015	27	1月～ 防球フェンス工事 1月 筑後地区音楽祭器楽の部出場 6月 ステップアップタイム開始 7月 保健室移転 夏休みプール開放中止 8月 職員室エアコン工事 25日に二学期開始。 10月 市教委学校訪問 児童玄関前道路工事
2016	28	1月 筑後地区音楽祭器楽の部出場 久留米市教育委員会教育研究指定中間報告会 9月 視聴覚室床面張替。江南中学校区ブラン公開授業研 11月 久留米市教育委員会教育研究指定研究発表会 荘島大好きウォーキング実施。図工室工作台設置
2017	29	1月 理科室実験台交換 4月 青木繁旧居保存会より「わだつみのいるこの宮」（複製）寄贈 12月 福岡県教育センターのカリキュラム・マネジメント研究開始
2018	30	2月 特別教室遮光カーテン設置 3月 校舎南側側溝改修 4月 福岡県教育センター調査研究（カリキュラム・マネジメント）協力校となる 8月 学校北側の赤レンガ塀撤去・フェンス設置 9月 東校舎屋上雨漏り防止工事 12月 児童昇降口防犯カメラ設置
2019	31	2月 県児童画展学校賞受賞 4月 福岡県教育センター調査研究（カリキュラム・マネジメント）協力校（継続）
2020	令和 2年	1月 県児童画展奨励賞受賞 2月 音楽室エアコン設置 3月 新型コロナウイルス感染症感染防止のため3月9日～24日休校 4月 新型コロナウイルス感染症感染防止のため5月22日まで休校（始業式の日のみ登校） 入学式5月に延期 5月 新型コロナウイルス感染症のため運動会を延期 8月 新型コロナウイルスのため1学期終業式8日、2学期始業式21日に実施 10月 運動会実施。（24日午前のみ） 11月 玄関防犯カメラ設置
2021	3	4月 Chromebookが導入 6月 新型コロナウイルス感染症のため運動会延期 9月 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため30日までオンライン授業 10月 運動会実施(23日午前のみ) 1月 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため3月4日までオンライン授業
2022	4	この年、学校創立150周年を迎える 8月4日 水の祭典久留まつり、マーチングパレード出場 9月 宿泊訓練in北山少年自然の家。1泊2日の活動を行う 9月 修学旅行in長崎。平和の尊さを学ぶ2日間 10月22日 荘島小フェスタ。150周年記念・航空写真撮影 11月26日 荘愛セール、大いちょう祭り。いちょうのイラストと荘小150の文字をライトアップ

※この年表は、久留米市史年表、荘島小学校130周年記念誌、荘島小学校資料、荘島小学校公式HPなどから作成しました。

